

会議要録

会 議 名	第2回進路支援講座業務委託事業候補者選考委員会
開 催 日 時	令和6年3月12日（火曜日） 午前9時30分から午前11時まで
開 催 場 所	港区立教育センター 研修室3
委 員 員	【出席者】 三尾忠男、増淵達夫、秋田博昭、吉野達雄、篠崎玲子
事 務 局	下橋良平（統括指導主事）、加藤靖規（指導主事） 澤木俊宏、堀内遥、宮原可帆（教育支援係）
会 議 次 第	1 開会 2 一次審査結果について 3 二次審査について 4 閉会
配 付 資 料	【配付資料】 資料1 進路支援講座業務委託事業候補者選考一次審査集計結果 資料2 第3回選考委員会進行スケジュール（案） 資料3 進路支援講座業務委託事業候補者選考二次審査の実施に関する留意事項（案） 資料4 二次審査採点基準表 資料5 進路支援講座業務委託第1回事業候補者選考委員会会議要録（案） 参考資料1 進路支援講座業務委託事業候補者募集要項 参考資料2 進路支援講座業務委託事業候補者選考基準 参考資料3 仕様書

会議の結果及び主要な発言

事務局	<p>1 開会</p> <p>2 一次審査結果について (資料1の説明)</p>
B委員	見積額はどのような基準で採点したのか。
事務局	募集要項に記載する事業規模を設定する際に複数の事業者から見積を取得し、その中で一番低い見積額を事業規模の額としたので、その事業規模に比してどのくらい低かったかを基準に採点している。
D委員	低いほど良いということか。
事務局	プロポーザル方式での事業者の選定として、提案内容が良く、金額が低いというものを総合的に高く評価すべきだと考えている。
D委員	見積額の採点の基準はあるのか。
事務局	ガイドラインで金額が低いほど点数を高くするというのは決まっており、事業規模に応じて、一定割合で金額が低くなるほど、得点が高くなる。
C委員	一次審査の点と二次審査の点で事業候補者を決定するという理解であっているか。
事務局	一次審査の合計点と二次審査の合計点を足して、その合計点の最も高い事業者を事業候補者として決定する。
C委員	業績実績はどのような基準で採点したのか。
事務局	様式4及び5に記載している過去5年間の1集団30名以下の集団指導の実績で判断している。いずれの事業者も業績実績は十分であるため、高い得点としている。
B委員	<p>【一次審査の講評】</p> <p>A事業者は全体的に基礎力を重視する事業者なのかと思った。この事業で気になっているのは、学校の進路指導とのすみ分けであるが、A事業者は学校の進路指導を尊重しているように感じた。学校がやるべきことと事業者がやるべきことを理解している提案である。この事業は進路を幅広く網羅する事業と理解しており、都立高校を重視していることが読み取れた提案だったので、習熟度が高い生徒への対応はどうなるのか気になっている。教材の中で、1～2年生と3年生がほぼ同じで、指導の時期の違いも明確ではなく、その辺りが心配である。スケジュールも具体性に欠けるので物足りなさも感じた。</p> <p>B事業者は主体性を重んじるコンセプトは特徴的だと思った。それだけに事業者としてやることと学校がやることをどう理解しているのかが気に</p>

	<p>なった。自己決定ベースをどのように指導していくのか。学習の時間が自己決定ベースの時間で取られ、シラバスを見ても時間の配分が分からなかったのが気になった。講師は大学生が中心であるように見えたが、この事業にとって適切なのか。体制もよく分からなかった。教材は講義動画になっており、対面講座でなぜ動画なのかと疑問に感じた。</p> <p>C事業者は講師の配置計画が教科ごとに1名なのかがよく分からなかった。それ以外は多面的な視点で提案されていた。区の現状をよく分析しており、講師も役職に応じて分析し、採用されている。指導については定期考査対策・入試対策の時期に、明確に重点がわかるように記載されている。また、都立だけではなく私立についても記載している部分は評価したい。シラバスも分かりやすく、危機意識や危機対応、コンプライアンスについても明確に記載している。</p>
C委員	<p>A事業者はオーソドックスな印象を受けた。気になったのは家庭学習を大切にしている部分で、宿題がたくさん出されるのかなと感じた。独自の教材をやらせて生徒にどんどん解かせる印象があり、講師があまり指導力をもって行う印象ではなかった。</p> <p>B事業者は講師が売りになっているのかなと思った。自己決定する部分はいいかなと思ったが、一人ひとりの細かい学力面以外のサポートは薄いように感じる。習熟度が低い子への指導はどうなのかという印象をもった。</p> <p>C事業者は3事業者の中では一番ノウハウを持っていそうな事業者だと思った。教室の配置人数が少ないので、トラブル対応をどうするのが心配であるが、全体的にバランスが良くて分かりやすかった。</p>
E委員	<p>A事業者は基礎学力を重視しているのかなと思った。</p> <p>B事業者は全ての生徒にマッチングするのだろうかという疑問に感じた。</p> <p>C事業者は事業を理解しており、提案内容がこの事業に合っていると思った。</p>
D委員	<p>事業者ごとに提案書のコンセプトは違うが一定の水準を保っているため、どこが受託しても大丈夫だと思った。様々な視点が考えられるが、大きな視点は子どもを預かる体制だと思う。また、講師のレベルの差で大きく変わってくるので、この点は重要視したい。子どもを預かる体制はC事業者がこの配置でできるのか不安に感じた。B事業者の講師の部分は、大学生の経験値で子どもを指導するという点に疑問に感じた。同じ講師でも経験年数が高い講師を選びたい。その点だと、A事業者もC事業者も経験年数5年以上なので評価したい。一方でICTをみるとシステム化しているのはB事業者であり評価したい。</p>
A委員	<p>A事業者は講師の採用について根拠などが読み取れない部分があったので二次審査で質問したい。基礎学力の獲得がこの事業のメインだったのが疑問だった。1～2年生と3年生に違いがないので、区別が欲しかった。</p> <p>B事業者は大学生の講師だと就職活動などもあるので、一人の講師が最後までちゃんとやりきれぬかが疑問であり、かなり不安に感じたので低い点をつけた。高校受験に経験をもっているのかも分からなかった。対面講座とICT教材で、なぜ同じ教材を使用するのかも疑問に思った。</p> <p>C事業者の懸念点は配置人数だけである。唯一、指導時間に出講しない講師の場合の記載もあり、様々なトラブルについて目が行き届いていると思ったので高く評価した。</p>

<p>委員長</p>	<p>【意見交換】 各委員からの講評を踏まえ、意見交換をしたい。特に、5段階評価において、委員間で3以上の差がある項目について確認したい。</p> <p><B事業者について></p> <p>Ⅲ 企画提案の評価 1 進路支援講座に対する考え方について (1) 基本方針 → B委員：2 C委員：5</p>
<p>C委員</p>	<p>体制としては一番潤沢なのかと思って重視した。</p>
<p>B委員</p>	<p>基本方針なので、自己ベース等の表現が抽象的に感じた。学校とのスタンスをどのように考えているのか分からないので低くした。</p> <p>Ⅲ 企画提案の評価 2 講師の採用・研修について (1) 講師の採用方法及び採用基準、研修 → A委員：1 C委員：4</p>
<p>A委員</p>	<p>悩む生徒の気持ちが理解できるのかというところに疑問を感じた。大学生が1年間対応できるのかという不安と、生徒の気持ちをどこまで押し量ることができるのかと思った。そのため、かなり厳しい評価をした。</p>
<p>C委員</p>	<p>学力という点から、テクニックを持っている講師がたくさんいるように感じたので高い評価をした。</p> <p>(意見交換を踏まえて各委員が採点を見直し、事務局が再集計)</p>
<p>事務局</p>	<p>【一次審査通過事業者の決定】 (再集計結果の説明)</p>
<p>委員長</p>	<p>一次審査の評価点数については、この点数で決定してよろしいか。</p> <p>(異議なし)</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは、A事業者は694点、B事業者は643点、C事業者は824点で決定する。一次審査通過事業者については、一次審査の最低ラインである60%以上の得点をした事業者とするが、3者とも60%以上の得点をしているため、一次審査通過事業者としたいが、意見はあるか。</p> <p>(異議なし)</p>
<p>委員長</p>	<p>それではそのとおりに決定する。</p> <p>→ 一次審査通過者はA事業者、B事業者、C事業者に決定</p>

	<p>3 二次審査について (資料2から資料4までの説明)</p>
委員長	
A委員	事業者間で顔をあわせることはないのか。
事務局	顔をあわせることはない。
C委員	タイムスケジュールは事業者に見せているのか。時間がずれてプレゼンテーションの時間が少なくなるということはないのか。
事務局	各事業者にはそれぞれの集合時間等を示した通知をするが、開始時間がずれてもプレゼンテーション15分、質疑応答15分を縮めることはない。
D委員	プレゼンテーションでは新しい提案が出てくることはないのか。
事務局	そのとおりである。
A委員	留意事項について、ICT教材は実際に教材を動かしてもらって質問することはできるのか。それは「内容を網羅的に説明」という部分を超えるか。
事務局	一部分だけを強調して説明する事業者もあり、公平に評価ができないことがあったので、「網羅的」と記載している。ネットワーク環境は事業者で準備してもらうことになるが、プレゼンテーションの中で動画を使用することは問題ない。
B委員	パワーポイントの中のテキストを拡大したり、動画を再生したりすることはできるのか。
事務局	そのとおりである。全く提案にないものをプレゼンテーションするのは不可である。
	<p>→ 資料2、資料3について了承 (資料4については、第一回選考委員会です済)</p>
	<p>【共通質問事項について】</p>
委員長	各事業者への共通質問事項を設けるか確認したい。
E委員	教室での講師の配置体制については伺いたい。講師が教室内でどのように動くのかの確認をしたい。
B委員	学校の進路支援とのすみ分けをどのように考えているかは聞いておきたい。
	<p>→ 共通質問事項として、教室での講師の配置体制をE委員から、学校での進路支援とのすみ分けをどう考えているかをB委員から質問することを決定</p>
	<p>4 閉会</p>